

JICA 英国事務所

英国援助情報ヘッドライン

12 September 2005
Vol. 4

今回のメインピック:

8月は夏休みシーズンのために目立った記事はありませんが、DfID がカザフスタン支援を終了させました。また、DfID の農業協力に関する政策ドラフトが公表されました。



From: 英国事務所長

<プレスリリース>

DfID はケニア向けに 1960 万ポンドを追加拠出し、母子を対象に 1100 万張の薬剤処理済の蚊帳の配布にあてる。これは 2002 年 1 月から実施している英米連携の蚊帳配布の一環であり、2007/08 年には弱者の 75% に蚊帳が行き渡ることになる。(8 月 3 日)

<ニュース>

DfID が 100% 出資している CDC(Capital for Development)社 は中・低所得国にこれまで 110 億ポンドの投資を行った。2004 年では 75% が低所得国向けであり、56% はサブサハラ及び南アジア向けであった。CDC は独自の経営を行っており、DfID は通常業務には関与していない。象牙海岸のゴム産業、ザンビアの農業、中国のスィカズラ科果樹酒産業、アフリカの情報産業、タンザニアの電力に関するケーススタディーをウェブサイトにて公表。(8 月 24 日)

DfID はマリの 5 歳以下の子供 17 万 5000 人とブルキナファソの貧困層 57000 人へ緊急食糧供与を実施する。総額は 120 万ドルで、100 万ドルは WFP 経由でマリ向け、20 万ドルはカトリック系の援助組織を通じてブルキナファソ向けである。これによりニジェールを含むサヘル地域向けの DfID の支援総額は 392.5 万ポンドとなる。(8 月 17 日)

DfID は貧困国向けの援助を増やすために 1992 年から実施していたカザフスタン支援を 7 月を以って終了させた。これまで総額 1700 万ポンドを拠出し、旧核実験地に対する環境面で持続的な土地利用計画の策定、一次医療、水資源管理、貧困削減に対する市民組織の役割づくりなどの実績を上げた。同国の今後の課題は石油・ガス分野の透明性、エイズ対策（カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタンへ世銀と連携して支援しており、今後 4 年間で DfID は 640 万ポンドを引き続き拠出する）であり、英国政府は外務・英連邦省、環境・食糧・農業省、産業省などを通じてカザフスタンへの支援を続ける（8 月 12 日）

DfID はニジェールの人道支援に 25 万ドルを拠出した。OCHA と WHO の連携強化に使われる。ニジェール向け DfID の支援総額は 325 万ポンドとなった。(8 月 10 日)

DfID の農業分野の協力政策書ドラフトが完成。9 月 30 日までコメント受付。内容は貧困削減における農業の重要性を示すものであり、コメントとしては特に DfID の農業分野への協力の妥当性、成長や貧困削減と農業の関連性について広く求めている。ウェブサイトは http://dfid-agriculture-consultation.nri.org/launchpapers/NewAgricPolicyPaper_draft08_05.doc (8 月 4 日)

以 上